

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	理学療法技術論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (3) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時限	後期	教室名	普通教室 機能訓練室
担 当 教 員	専任教員	実務経験と その関連資格	理学療法士として臨床現場で理学療法を実施していた			
《授業科目における学習内容》						
多岐にわたる理学療法の対象の中で、代表的な疾患別の基本的な理学療法プログラムについて学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験(筆記、実技など)、出欠および受講状況から総合的に評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
理学療法ハンドブック 改訂第4版 第3.4巻(協同医書出版社) PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編						
《授業外における学習方法》						
授業を理解するために予習・復習を通して、自主的に調べ学習をすること。						
《履修に当たっての留意点》						
前半は教科書および配布資料を中心に講義を行います。後半はDVDおよび配布資料を中心に実技を行います。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	運動機能障害の特徴、急性期および回復期の理学療法、基本的な運動療法などについて理解する。	指定テキスト 配布資料(適宜)	(事前学習) テキストを読む 30分 (事後学習) 脳血管障害の運動療法について復習する 30分	
		各コマにおける授業予定	脳血管障害			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	障害構造や経年的変化、アプローチの目的や方法などについて理解する。	指定テキスト 配布資料(適宜)	(事前学習) テキストを読む 30分 (事後学習) 脳性麻痺のアプローチ方法について復習する 30分	
		各コマにおける授業予定	脳性麻痺			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	切断のリハビリテーションの基礎知識、断端の管理方法、義肢の装着などについて理解する。	指定テキスト 配布資料(適宜)	(事前学習) テキストを読む 30分 (事後学習) 切断のリハビリテーションについて復習する 30分	
		各コマにおける授業予定	切断と義肢			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	脊柱の機能解剖、腰痛の病態・評価・理学療法について理解する。	指定テキスト 配布資料(適宜)	(事前学習) テキストを読む 30分 (事後学習) 腰痛の病態・評価・理学療法について復習する 30分	
		各コマにおける授業予定	腰痛症			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	骨折の分類・治癒機転・治療などについて理解する。	指定テキスト 配布資料(適宜)	(事前学習) テキストを読む 30分 (事後学習) 骨折の分類・治療について復習する 30分	
		各コマにおける授業予定	骨折			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	病因・病理・発症機序・臨床像・診断・症状・治療などについて理解する。	指定テキスト 配布資料(適宜)	(事前学習) テキストを読む 30分 (事後学習) 関節リウマチの症状・治療について復習する 30分
		各コマにおける授業予定	関節リウマチ		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	分類と構造、さまざまな末梢神経損傷、機能回復過程と理学療法などについて理解する。	指定テキスト 配布資料(適宜)	(事前学習) テキストを読む 30分 (事後学習) 末梢神経損傷の理学療法について復習する 30分
		各コマにおける授業予定	末梢神経障害		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	病因・病態・臨床症状・治療などについて理解する。	指定テキスト 配布資料(適宜)	(事前学習) テキストを読む 30分 (事後学習) 頸肩腕症候群の臨床症状・治療について復習する 30分
		各コマにおける授業予定	頸肩腕症候群		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	代表的な疾患の症状・病態・治療などについて理解する。	指定テキスト 配布資料(適宜)	(事前学習) テキストを読む 30分 (事後学習) 変形性関節症の症状・治療について復習する 30分
		各コマにおける授業予定	変形性関節症		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	スポーツ外傷と障害、身体運動・バイオメカニクス・理学療法の関連について理解する。	指定テキスト 配布資料(適宜)	(事前学習) テキストを読む 30分 (事後学習) スポーツ外傷と障害、理学療法について復習する 30分
		各コマにおける授業予定	スポーツ障害		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	さまざまな合併症を含む臨床像と評価、理学療法や環境整備などについて理解する。	指定テキスト 配布資料(適宜)	(事前学習) テキストを読む 30分 (事後学習) 脊髄損傷の理学療法と環境整備について復習する 30分
		各コマにおける授業予定	脊髄損傷		
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	呼吸器疾患の病態と各種呼吸理学療法などについて理解する。	指定テキスト 配布資料(適宜)	(事前学習) テキストを読む 30分 (事後学習) 呼吸器疾患の各種呼吸理学療法について復習する 30分
		各コマにおける授業予定	呼吸器疾患		
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	心血管疾患リハビリテーションの概念・対象疾患・プログラムなどについて理解する。	指定テキスト 配布資料(適宜)	(事前学習) テキストを読む 30分 (事後学習) 心血管疾患リハビリテーションについて復習する 30分
		各コマにおける授業予定	虚血性心疾患		
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	病型・成因・病態・症状・合併症・治療などについて理解する。	指定テキスト 配布資料(適宜)	(事前学習) テキストを読む 30分 (事後学習) 糖尿病の症状・合併症・治療について復習する 30分
		各コマにおける授業予定	糖尿病		
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症などの病態や治療などについて理解する。	指定テキスト 配布資料(適宜)	(事前学習) テキストを読む 30分 (事後学習) パーキンソン病の病態や治療について復習する 30分
		各コマにおける授業予定	難病		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	理学療法技術論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (3) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時限	後期	教室名	普通教室 機能訓練室
担 当 教 員	専任教員	実務経験と その関連資格	理学療法士として臨床現場で理学療法を実施していた			
《授業科目における学習内容》						
多岐にわたる理学療法の対象の中で、代表的な疾患別の基本的な理学療法プログラムについて学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験(筆記、実技など)、出欠および受講状況から総合的に評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
理学療法ハンドブック 改訂第4版 第3.4巻(協同医書出版社) PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編						
《授業外における学習方法》						
授業を理解するために予習・復習を通して、自主的に調べ学習をすること。						
《履修に当たっての留意点》						
前半は教科書および配布資料を中心に講義を行います。後半はDVDおよび配布資料を中心に実技を行います。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第16回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	患者や家族への初回面接、血圧・脈拍などのバイタルサイン・測定方法について理解する。	指定テキストおよびDVD 配布資料(適宜)	(事前学習) テキストで確認 30分 (事後学習) バイタルサイン・測定方法について復習する 30分	
		各コマにおける授業予定	医療面接、バイタル測定			
第17回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	転倒予防、点滴管理、カテーテル管理について理解する。	指定テキストおよびDVD 配布資料(適宜)	(事前学習) テキストで確認 30分 (事後学習) 転倒予防について復習する 30分	
		各コマにおける授業予定	リスク管理			
第18回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	麻痺や外傷後の二次的合併症、三角巾の装着方法などについて理解する。	指定テキストおよびDVD 配布資料(適宜)	(事前学習) テキストで確認 30分 (事後学習) 三角巾の装着方法について復習する 30分	
		各コマにおける授業予定	上肢管理(三角巾の装着介助)			
第19回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	下肢装具の種類や機能、装着方法などについて理解する。	指定テキストおよびDVD 配布資料(適宜)	(事前学習) テキストで確認 30分 (事後学習) 下肢装具の装着方法について復習する 30分	
		各コマにおける授業予定	下肢装具の装着介助			
第20回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	車椅子の基本構造、駆動介助方法などについて理解する。	指定テキストおよびDVD 配布資料(適宜)	(事前学習) テキストで確認 30分 (事後学習) 車椅子の駆動介助方法について復習する 30分	
		各コマにおける授業予定	車椅子の駆動介助			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第21回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	患者の状態に合わせた運動パターンの誘導、安全で負担の少ない移乗方法について理解する。	指定テキストおよび DVD 配布資料(適宜)	(事前学習) テキストで確認 30分 (事後学習) 移乗方法について復習する 30分
		各コマに おける 授業予定	移乗介助		
第22回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	自動ROM・他動ROMの測定方法、測定値の表記などについて理解する。	指定テキストおよび DVD 配布資料(適宜)	(事前学習) テキストで確認 30分 (事後学習) 自動・他動ROMの測定方法 について復習する 30分
		各コマに おける 授業予定	関節可動域(ROM)測定		
第23回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	測定方法、グレード判定、代償動作などについて理解する。	指定テキストおよび DVD 配布資料(適宜)	(事前学習) テキストで確認 30分 (事後学習) 筋力の測定方法・判定につい て復習する 30分
		各コマに おける 授業予定	筋力測定		
第24回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	四肢長・四肢周径の計測方法や注意点、表在感覚・深部感覚の検査方法や注意点などについて理解する。	指定テキストおよび DVD 配布資料(適宜)	(事前学習) テキストで確認 30分 (事後学習) 計測方法や注意点について 復習する 30分
		各コマに おける 授業予定	形態計測、 感覚検査		
第25回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	反射検査や筋緊張検査の意義・検査方法・注意点などについて理解する。	指定テキストおよび DVD 配布資料(適宜)	(事前学習) テキストで確認 30分 (事後学習) 検査方法や注意点について 復習する 30分
		各コマに おける 授業予定	反射検査、 筋緊張検査		
第26回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	各グループで模擬患者の評価とレポート作成	指定テキストおよび DVD 配布資料(適宜)	(事前学習) 模擬患者について確認 30分 (事後学習) レポート作成 30分
		各コマに おける 授業予定	模擬患者の評価(1)		
第27回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	各グループで模擬患者の評価とレポート作成	指定テキストおよび DVD 配布資料(適宜)	(事前学習) 模擬患者について確認 30分 (事後学習) レポート作成 30分
		各コマに おける 授業予定	模擬患者の評価(2)		
第28回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	各グループで模擬患者の評価とレポート作成	指定テキストおよび DVD 配布資料(適宜)	(事前学習) 模擬患者について確認 30分 (事後学習) レポート作成 30分
		各コマに おける 授業予定	模擬患者の評価(3)		
第29回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	各グループで模擬患者の評価とレポート作成	指定テキストおよび DVD 配布資料(適宜)	(事前学習) 模擬患者について確認 30分 (事後学習) レポート作成 30分
		各コマに おける 授業予定	模擬患者の評価(4)		
第30回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	各グループで模擬患者の評価とレポート作成	指定テキストおよび DVD 配布資料(適宜)	(事前学習) 模擬患者について確認 30分 (事後学習) レポート作成 30分
		各コマに おける 授業予定	模擬患者の評価(5)		